

高知県の人口減少についての研究～外国人労働者に視点を当てて～

1240427 楠瀬日向子

指導教員 中村直人

研究背景

高知県の人口は昭和 30 年をピークに減少を続けているが、近年人口が減少しても、拡大する経済へと構造を転じている。しかし、経済面において影響がなくとも、人々の生活には影響が出ると予想され、人口が増加することが必要であると考えた。よって、高知県の減少している人口に着目することとした。

また、高知県の人口のみならず日本の人口も減少していることにより、日本国内だけでなく世界にも目を向け、高知県で働く外国人労働者に高知県で永住化してもらえるような取り組みを検討する。

研究目的

本研究の目的は、高知県で取り組んでいる外国人労働者への政策と外国人労働者の定住が先行して行われている他の国や市町村の外国人労働者への政策や移民政策と比較し、外国人労働者に高知県で永住してもらえるような手法を明らかにすることである。

研究方法

文献研究と事例研究より外国人労働者への施策や移民にむけての施策について考慮し、高知県に適した手法を考察する。

分析結果

人口減少社会において、外国人労働者の受け入れは必要である。そして、外国人労働者に永住してもらうためには、国、県、市町村、NPO などの各機関で柔軟な連携を取り、環境の整備を行うことが重要であり、具体的には、外国人労働者の子どもへの言語教育を行うことや、日本人と外国人労働者の交流できる行事を行うなどといった外国人労働者も一緒に参加できる取り組みを行うなどの環境整備が求められる。また、やさしい日本語の活用を促進させていくことも重要である。

考察・結論

高知県では、高知県の方針である「日本語教育の一層の推進」のもと日本語教室や日本語サロンが増加しているが、外国人労働者の永住化に向けて、外国人労働者の子どもへの言語教育や母語、母文化をも学べる取り組みを行っていくのが良いと考える。そして、そのような環境を整備していくうえでは、子どもへの質の良い教育が必要なため、指導者の育成支援も求められる。